

ほん まる ご てん しゅう ふく
本丸御殿の修復

平成28年熊本地震の被害状況

本丸御殿は倒壊を免れたものの、土台となる石垣の一部が膨らむなどの被害が生じ、その結果、建物の軸組がゆがんで床や壁が傾き、壁のひび割れや障子の開け閉めが困難になるなどの被害が出ています。本丸御殿を代表する「昭君の間」でも、障壁画の破損やたわみなどが生じました。

現在は建物内部の安全が確保できないことから、入場を制限しています。



軸組がゆがみ、壁にひびが入った本丸御殿内部(数寄屋棟)



沈下した床(昭君の間)

本丸御殿の復旧計画

本丸御殿は令和6年度(2024年度)から2年かけて復旧(解体)の設計を行い、その後建物の一部を解体して復旧工事を行います。建物の復旧工事と並行して、御殿の数寄屋棟下石垣の部分的な解体と積み直しも行う予定です。※石垣の復旧設計は令和5年度(2023年度)に完了
 復旧工事期間は5年程と見込んでおり、令和14年度(2032年度)の復旧完了を目標にしています。

○復旧スケジュール ※今後の建造物復旧設計の結果等に伴い、以降のスケジュールは変更になる可能性があります。

年度	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和9年 (2027)	令和10年 (2028)	令和11年 (2029)	令和12年 (2030)	令和13年 (2031)	令和14年 (2032)
建造物	御殿復旧設計			解体工事	復旧工事				
石垣						石垣解体			石垣積み直し